

Title	明治・大正期都市・農村醤油市場の構造と価格連関：高梨本家文書による数量的分析
Sub Title	Structure and association of prices in urban and rural soy sauce markets during the Meiji and Taisho periods : quantitative analysis of the Takanashi Honke documents
Author	前田, 廉孝(Maeda, Kiyotaka) 伊藤, 幹夫(Ito, Mikio)
Publisher	
Publication year	2024
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は，国内市場が拡大した20世紀転換期の都市・農村部における製品市場の重層的構造の内実と形成過程を醤油価格の事例より分析した。経済史研究者は1次産品の事例から市場の価格形成機能を検証してきたが，より多様かつ複雑な要因で価格が変動する製品の市場は考察してこなかった。そこで本研究は，近代的商品市場の形成期以降に大衆的な消費財としての地位を獲得した醤油に着目し，上花輪歴史館所蔵高梨本家文書より作成した1887-1917年醤油価格データベースを分析した。具体的な研究課題として①醤油市場内における異ブランド間の価格連関，②関東地方都市・農村醤油市場内における異地点間の価格連関を考察した。 This study investigates soy sauce prices to analyze the multi-layered product market structure in urban and rural areas during the turn of the twentieth century when the domestic commodity market expanded. Economic historians have explored market price formation by focusing on primary products. However, they ignored the product market, which is exposed to the price fluctuations caused by various complex factors. To tackle that task, this study focuses on soy sauce, which became one of the representative mass consumer goods when the modern commodity market was formed. It creates a database of soy sauce prices from 1887 to 1917 by utilizing the Takanashi Honke Documents held by the Kamihanawa Historical Research Institute to analyze them. Concretely, this study has two research tasks: examining the relationship among the prices of different brands and investigating the price convergence between urban and rural areas within the Kanto region.
Notes	研究種目：基盤研究 (C) (一般) 研究期間：2020～2023 課題番号：20K01795 研究分野：日本経済史
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_20K01795seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

令和 6 年 4 月 26 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01795

研究課題名 (和文) 明治・大正期都市・農村醤油市場の構造と価格連関：高梨本家文書による数量的分析

研究課題名 (英文) Structure and association of prices in urban and rural soy sauce markets during the Meiji and Taisho periods: Quantitative analysis of the Takanashi Honke Documents

研究代表者

前田 廉孝 (Maeda, Kiyotaka)

慶應義塾大学・文学部 (三田) ・准教授

研究者番号：90708398

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 3,300,000 円

研究成果の概要 (和文) : 本研究は、国内市場が拡大した20世紀転換期の都市・農村部における製品市場の重層的構造の内実と形成過程を醤油価格の事例より分析した。経済史研究者は1次産品の事例から市場の価格形成機能を検証してきたが、より多様かつ複雑な要因で価格が変動する製品の市場は考察してこなかった。そこで本研究は、近代的商品市場の形成期以降に大衆的な消費財としての地位を獲得した醤油に着目し、上花輪歴史館所蔵高梨本家文書より作成した1887-1917年醤油価格データベースを分析した。具体的な研究課題として①醤油市場内における異ブランド間の価格連関、②関東地方都市・農村醤油市場内における異地点間の価格連関を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、現代に至るまで国内商品市場で大衆的な消費財として取引されている醤油に着目し、その価格形成メカニズムを分析した。従来の経済史研究も商品価格形成を分析してきたが、都市における1次産品 (食料・原燃料) を考察対象としてきた。以上の先行研究とは対照的に、本研究は①農村、②最終消費財を分析対象とした点の特徴である。その成果として、第1に都市と対照的に農村市場における異地点間の価格連動性は低かったこと、第2に醸造家は農村市場向け低級品の販売拡大によって成長したこと、第3に低級品販売拡大を目的に醸造家は「印」と称された多様なブランドを市場へ供給していたことが解明された。

研究成果の概要 (英文) : This study investigates soy sauce prices to analyze the multi-layered product market structure in urban and rural areas during the turn of the twentieth century when the domestic commodity market expanded. Economic historians have explored market price formation by focusing on primary products. However, they ignored the product market, which is exposed to the price fluctuations caused by various complex factors. To tackle that task, this study focuses on soy sauce, which became one of the representative mass consumer goods when the modern commodity market was formed. It creates a database of soy sauce prices from 1887 to 1917 by utilizing the Takanashi Honke Documents held by the Kamihanawa Historical Research Institute to analyze them. Concretely, this study has two research tasks: examining the relationship among the prices of different brands and investigating the price convergence between urban and rural areas within the Kanto region.

研究分野：日本経済史

キーワード：日本経済史 日本経営史 日本近代史 醤油醸造業 在来産業 高梨兵左衛門家 価格連関 製品ポートフォリオ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

商品市場における「一物一価」の達成に至る過程と価格メカニズムの稼働条件は、国内外の経済史研究者によって1次産品市場の事例から分析されてきた。例えば、海外ではFederico (2011)などが小麦市場を、日本ではIto et al. (2016a; 2016b; 2017; 2018)などが米穀市場を対象に、市場統合と情報効率性を検証した。さらに、日本では近代的商品市場の形成と社会資本の整備との関連も考察され、石井 (1994)は電信網の整備過程、中西 (2002)は商品流通機構の構築過程にそれぞれ着目した。しかし、管見の限りでは、相対（あいたい）的な取引関係を前提にブランドの相違など多様かつ複雑な要因で価格が変動する製品の市場は考察されてこなかった。そこで、本研究は醤油市場を事例に製品市場の価格形成を分析する。

醤油の消費は1890年頃より都市部で主に拡大したが、自家醸造が盛んな農村部でも低級品醤油の購買が同時期から拡大した（谷本 (1990; 2005)）。このように醤油は近代的商品市場の形成期以降に大衆的な消費財としての地位を獲得した一方で、現代まで輸入は皆無に等しく、その価格変動は国内的要因に規定された。それゆえに醤油は、国内の異地点間における製品価格の連関を分析する際に考察対象として適する。かかる分析の必要性は、「在来産業」史研究の一環として醤油を考察の俎上に載せてきた先行研究からも指摘し得る。

中村 (1985)が考察の必要性を強調した「在来産業」の一環として醤油醸造業史研究では、1980年代から1次史料を用いた実証研究が進展し、代表的な成果には千葉県銚子市のヤマサ醤油株式会社所蔵ヤマサ文書を用いた林 (1990)が挙げられる。さらに、近年には上花輪歴史館所蔵高梨本家文書を用いた井奥・中西 (2016)が刊行され、銚子と並ぶ関東地方の2大醤油醸造地であった千葉県野田市における醤油醸造業経営の特質が解明された。Fruin (1983)が指摘したように、キッコーマンの源流を成す高梨家の醸造規模は1887年頃より急成長した。その成長要因を井奥・中西 (2016)は多角的に検討し、井奥 (2016)では交通インフラの整備を背景に高梨家は都市部のみならず農村部向け低級品の販売も拡大させたこと、花井 (2016)では都市・農村部の双方で同家が多種の印（ブランド）を販売していたことが解明された。すなわち、都市と農村の醤油市場は同質的でなかった一方、必ずしも断絶せず、製品の質的差異を伴った重層的な構造が形成されていた。

こうした構造は、マクロ経済の成長と都市・農村間の所得格差拡大が併進した戦前期日本では醤油以外の製品市場でも形成され得た（深尾ほか (2017)）。そこで、複雑な製品市場構造の内実と形成過程の理解に市場情報が集約された価格の分析は不可欠となり、上花輪歴史館が所蔵する高梨家の醤油取引記録に含まれる膨大な価格データの活用が望まれる。

<参考文献>

- 井奥成彦 (2016) 「高梨家醤油の地方販売の展開」 井奥・中西編著 (2016, 461–485 頁)。
井奥成彦・中西聡編著 (2016) 『醤油醸造業と地域の工業化』 慶應義塾大学出版会。
石井寛治 (1994) 『情報・通信の社会史』 有斐閣。
谷本雅之 (1990) 「銚子醤油醸造業の経営動向」 林玲子編 (1990, 231–340 頁)。
—— (2005) 「江戸崎の醤油醸造業」 林玲子・天野雅敏『日本の味 醤油の歴史』 吉川弘文館, 134–145 頁。
中西聡 (2002) 「近代の商品市場」 桜井英治・中西編『流通経済史』 山川出版社, 275–328 頁。
中村隆英 (1985) 『明治大正期の経済』 東京大学出版会。
花井俊介 (2016) 「明治後期・大正初期における醤油生産の構造」 井奥・中西編著 (2016, 223–253 頁)。
林玲子編 (1990) 『醤油醸造業史の研究』 吉川弘文館。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編 (2017) 『日本経済の歴史 3 近代 1』 岩波書店。
Federico, G. (2011), “When Did European Markets Integrate?” *European Review of Economic History*, 15, 93–126.
Fruin, M. W. (1983), *Kikkoman*, Cambridge, Mass: Harvard University Press.
Ito, M., Maeda, K., and Noda, A. (2016a), “Market Efficiency and Government Interventions in Prewar Japanese Rice Futures Markets,” *Financial History Review*, 23(3), 325–346.
—— (2016b) “Market Integration in the Prewar Japanese Rice Markets,” *Quantitative Finance Papers* [arXiv: 1604.00148].
—— (2017) “Discretion versus Policy Rules in Futures Markets: A Case of the Osaka-Dojima Rice Exchange, 1914–1939,” *Quantitative Finance Papers* [arXiv: 1704.00985].
—— (2018), “The Futures Premium and Rice Market Efficiency in Prewar Japan,” *Economic History Review*, 71(3), 909–937.

2. 研究の目的

本研究は、上花輪歴史館所蔵高梨本家文書を利用し、醤油市場の事例より国内市場が拡大した20世紀転換期の都市・農村部における製品市場の重層的構造の内実と形成過程を分析した。その目的は以下2点であった。

- ① 大衆的消費財たる醤油を事例に製品市場の価格連関を分析し、主として1次産品に着目して

きた市場統合に関する歴史研究の視野を製品市場にまで拡大する。

- ② 価格データの利用による都市のみならず農村まで視野に収めた包括的考察から国内醤油市場の構造と異地点間の連関を分析し、取引関係と流通量の推移から都市と農村の醤油市場構造を個別的に論じてきた醤油醸造業史研究の進展に貢献する。

3. 研究の方法

本研究では、先述した研究目的を踏まえ、以下3点の作業・分析を実施した。

- ① 高梨本家文書に依拠した1887-1917年関東地方醤油月次価格データベースの作成
- ② 1887-1917年醤油市場内における異ブランド間の価格連関分析
- ③ 1887-1917年関東地方都市・農村醤油市場内における異地点間の価格連関分析

本研究では、高梨家が醸造規模の急成長を開始させた1887年から野田町内醸造家と野田醤油株式会社を共同設立した1917年までにおける同家醤油販売価格を1次史料より取得し、基礎的なデータに用いた。その準備として、①全国屈指の醸造規模を誇った高梨家が毎年400軒ほどの関東地方内各地醤油問屋に対する取引を網羅的に記録した『醤油萬覚帳』より取引先別・印別醤油月次価格の大規模なデータベースを作成した。以上の準備作業を経た上で具体的な分析を進めた。

②では、高梨家の醤油販売を網羅的に分析した。高梨家は高級品から低級品まで幅広い印（ブランド）の醤油を販売した。そこで、異なるブランド間における価格の連関を①で作成したデータベースより分析し、分析結果を高梨本家文書に含まれる帳簿、仕切状、取引先との書簡より解釈を加えることで、醤油市場内の異ブランド間で価格変動が伝播した過程を考察した。

③では、高梨家が低級品を中心に醤油を販売した農村市場まで分析の視野を拡大する。そこで、①で作成したデータベースと1次史料より異地点間における低級品醤油価格の連関を考察した。そして、以上の②③より本研究は、第1に市場内における価格伝播の過程、第2に市場内における価格伝播の過程をブランドの相違も考慮しつつ解明し、異地点間及び異ブランド間における製品市場の重層性を実証的に分析した。

4. 研究成果

本研究は申請時点で研究期間を3ヶ年度に設定したが、COVID-19パンデミックによって史料調査の計画を大幅に変更せざるを得なくなったことから4ヶ年度に延長した。また、申請時点で本研究は研究代表者のほかに伊藤幹夫（慶應義塾大学経済学部教授）を研究分担者としていたが、令和3年度末における伊藤の定年退職後は研究代表者の単独研究となった。以上の変更を経た本研究の各年度における成果は以下の通りである。

(1) 令和2年度

本研究課題の遂行に必要なデータとモデルの整備に力点を置いた。その作業内容は、以下2点に集約できる。第1に、研究代表者（前田）は上花輪歴史館所蔵高梨本家文書「醤油萬覚帳」より地売り醤油の取引先別販売量・販売額を集約し、高頻度な価格データベース（DB）の整備を進めた。但し、COVID-19の拡大で本年度は上花輪歴史館における史料調査を実施できなかった。DBの完成には東京売り醤油の取引先別販売量・販売額を記載した史料の収集・分析が別途必要となるが、当該史料調査の目処が立たなかった。そこで、地方市場向け醤油販売の分析を進めた。高梨家は地方市場向けに約30種の印を設定し、多種の醤油を販売していた。こうした特徴は、既往の醤油醸造業史研究が大規模醸造家の代表例として扱ってきた銚子のヤマサ醤油には見られない。以上の分析を当面の代替策として進めた。第2に、研究分担者（伊藤）は（1）醤油市場における異なる印間の価格連関、（2）異地点間の価格連関を、より鮮明に解析するための統計的手法の開発を機械学習によるアイデアを背景に進めた。以上の作業により関連する対象市場のグルーピング・階層クラスターを識別する目処が立った。対象となるデータは市場・印・時系列といった属性を有する。市場における価格形成機能と伝搬過程という時系列での視点を含んだ分析を実施する場合、既存のクラスター分析に落とし込むと、「解釈困難なクラスター」の複数発生が予想される。そこで、DBを比較的簡単な構造を持つ巨大な線形時系列モデルに当てはめ、スパース回帰により、まずは基礎グループとしての最上位クラスターを形成する要因を特定するという接近方法を開発した。

(2) 令和3年度

令和2年度に整備済のデータを用いた分析と今後の分析に使用を予定しているモデルの整備を進めた。その作業内容は、以下2点に集約できる。第1に、研究代表者（前田）は「在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890-1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売り手印類似品」と題した論文の執筆を進めた。そして、手印・手印類似品の提供拡大による低級品販売の拡大を近代産業とは異なる在来産業固有の製品ポートフォリオの拡張として理解した。第2に、研究分担者（伊藤）は時系列で価格連関を調べる場合において連関の構造変化時点を高精度で特定することが可能なモデルを開発した。基礎としたのは伊藤が2019年6月にWestern Economic Association International 94th Annual Conference (San Francisco, CA, USA)において発表した単著論文“An Estimation Method for State-Space Models using Generalized LASSO Techniques”である。これを多変量時系列データに適用できる形に展開した。そのモデルをすで

に 2021 年 4 月に野田顕彦・和田龍磨両氏との共著で公開していた ” Time-Varying Comovement of Foreign Exchange Markets: A GLS-Based Time-Varying Model Approach ” Mathematics, 9(8), における応用例で使用した月次データに適用し、十分満足できる性能を確認することができた。

(3)令和 4 年度

令和 2 年度までに整備済のデータに依拠した論文の執筆を進めた。具体的に、「在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890-1910 年代醤油醸造家・高梨家の地方売り手印類似品」と題した論文を執筆し、令和 4 年 4 月に慶應義塾大学産業研究所よりディスカッションペーパー No.166 として刊行した (<https://www.sanken.keio.ac.jp/publication/KEO-dp/166/KEO-DP166.pdf>)。本論文より 3 点が明らかになった。第 1 に、低級品醤油が主体の地方市場は異地点間の価格連動性が低かった。第 2 に、高梨家は低級品の販売拡大を手印と手印類似品の提供拡大によって達成した。第 3 に、地方市場で手印と手印類似品は販路確保のみならず価格の低下抑制に寄与した。在来産業はテクノロジー・フロンティアの押し上げが不可能な特性から製品フロンティアの水平的拡張に傾注したが、在来産業で製品の品質規格は近代産業より統一されていなかった。その状況下で各生産主体は個別に大量の印を設定し、多様な印は在来産業の製品市場で各製品の識別に用いられた。こうした特徴から在来産業は近代産業より製品ポートフォリオの水平的拡張を柔軟に実施し、価格の部分的なコントロールに利用した。以上を近代産業とは異なる在来産業固有の製品ポートフォリオの拡張として指摘した。以上の内容に関する議論を関連の研究者と進展させ、2022 年度三田史学会日本史部会（令和 4 年 6 月 25 日・慶應義塾大学）、経営史学会第 58 回全国大会（令和 4 年 9 月 16 日・関西大学）において報告・議論した。

(4)令和 5 年度

本研究課題立案時の研究計画を変更し、ヤマサ醤油株式会社所蔵ヤマサ文書に依拠した分析を進めた。その理由は、依然として COVID-19 の影響によって高梨本家文書を所蔵する上花輪歴史館の調査が実施不能であることによる。令和 4 年度提出「実施状況報告書」の「8. 今後の研究の推進方策」で報告したように、上花輪歴史館の館員は全員が 70 歳以上と高齢であり、COVID-19 の社会に対する影響が低下した現時点においても調査開始の目処は立っていない。そこで、既に調査が再開されたヤマサ文書に着目し、ヤマサ醤油による醤油販売の分析を開始した。

高梨家は主要販路たる東京市下のみならず茨城県・埼玉県・千葉県など東京府の周辺にも広く販路を有していた。一方で、ヤマサ醤油の販売は高梨家より東京市に対する依存度が高かった。それゆえ、本研究課題の課題名に掲げた「都市・農村醤油市場」の構造比較には適さない。しかしながら、ヤマサ文書は高梨本家文書より販売先に関する詳細な情報を把握可能な史料が多数含まれる。ヤマサ文書の『販売店名簿』は東京市下の区・東京府下の町村ごとに販売先と販売量を網羅的に記録している。したがって、同史料の分析によって都市醤油市場の醤油流通・価格形成を詳細に分析できる。当該史料は洋式帳簿 15 冊として現存し、合計の頁数は約 3,000 に及ぶ。こうした膨大な史料の撮影とデータ化を本年度は進めた。

(5)総括

最終年度を終えた本研究課題は COVID-19 の影響で計画の修正をたびたび余儀なくされた。しかし、COVID-19 以前に撮影済の史料を有効に活用し、農村醤油市場における大規模醤油醸造業者の販売動向を解明することができた。都市向け販売の分析に注力してきた既往の醤油醸造業史研究とは対照的に、農村市場の動向を分析できたことは本研究課題における最大の成果であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Maeda, Kiyotaka	4. 巻 65
2. 論文標題 Market-based financing for small corporations during early industrialisation: The case of salt corporations in Japan, 1880s-1910s	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Business History	6. 最初と最後の頁 502-524
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00076791.2020.1825689	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Maeda, Kiyotaka	4. 巻 175
2. 論文標題 Distinctive Pricing in the Metropole of the Integrated Empire's Economy: Japan's Central and Local Rice Markets, 1900-1939	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 KEO Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2139/ssrn.4428628	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 166
2. 論文標題 在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890-1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売り手と手印類似品	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 KEO Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Maeda, Kiyotaka	4. 巻 170
2. 論文標題 Colonial impact on Japan's economy: Dynamics of the rice market during the interwar period	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 KEO Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 76
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：日露戦後の塩専売制度批判	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 183-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11457/swsj.76.3_183	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 76
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：大蔵省専売局による塩専売制度の改定	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 238-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 25
2. 論文標題 地方零細銀行と地域経済：1898～1919 年香川県宇多津町の製塩業金融	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 59-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 75
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：内地製塩業政策と台湾塩専売制度	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 65-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 75
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：植民地塩の輸移入と取引	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 204-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 75
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：19-20世紀転換期の食塩市場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 158-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Ito, Mikio	4. 巻 -
2. 論文標題 Detecting Structural Breaks in Foreign Exchange Markets by Using the Group LASSO Technique	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 arXiv:2202.02988 [econ.EM]	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 89
2. 論文標題 帝国日本の台湾・関東州塩需給と流通主体：1890-1910 年代を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 83-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 89
2. 論文標題 日露戦後日本の政府介入と超過需要：VAR・VEC モデルによる専売制度下食塩市場の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 75
2. 論文標題 講座 「財政専売」の時代：近代日本の食塩・塩専売制度と経済学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 1件／うち国際学会 10件）

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 農産物価格調整政策と先物・現物市場：1920-30 年代大阪米穀市場の分析
3. 学会等名 2023 年度慶應義塾大学東アジア研究所セミナー
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 戦前期日本の植民地米移入と米穀先物取引
3. 学会等名 第38回慶應義塾大学東アジア研究所学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Distinctive pricing in the metropole of the integrated empire's economy: Japan's central and local rice markets in the early 20th century
3. 学会等名 The East Asian Studies Center Seminar, Ohio State University "Food distribution and consumption in modern East Asia and the Japanese Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Distinctive pricing in the metropole of the integrated empire's economy: Japan's central and local rice markets in the early 20th century
3. 学会等名 East Asian Economic History Workshop, Ca' Foscari University of Venice (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Commodity futures trading and colonial imports in the metropole of Empire Japan
3. 学会等名 Academic Conference on Modern History of East Asia, National Taipei University (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Distinctive pricing in the metropole of the integrated empire's economy: Japan's central and local rice markets in the early twentieth century
3. 学会等名 Korean Economic History Society 2023 Summer International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 植民地産品流通の地理的不均一性と商品価格形成：1900-39 年東京・大阪・熊本米価の分析
3. 学会等名 社会経済史学会第92回全国 大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890-1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売りと手印類似品
3. 学会等名 2022年度三田史学会日本史部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Colonial impact on Japan's economy: Dynamics of the rice market during the interwar period
3. 学会等名 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Did a small commodity exchange only mirror prices in a major market?
3. 学会等名 The 1st Academic Seminar of the Food Distribution and Consumption in Modern East Asia and the Japanese Empire (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890-1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売り手と手印類似品
3. 学会等名 経営史学会第58回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Japan's colonies as suppliers of primary products: The circulation and pricing of colonial rice in Japan
3. 学会等名 Current Issues in Imperial History Workshop, University of Milan (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 書評会：前田廉孝『塩と帝国：近代日本の市場・専売・植民地』
3. 学会等名 経営史学会関東部会10月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Disparity in price formation between central and local commodity markets with the expansion of colonial imports: Analysis on the futures pricing of rice in Tokyo, Osaka, Kumamoto
3. 学会等名 The 2nd Academic Seminar of the Food Distribution and Consumption in Modern East Asia and the Japanese Empire (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Distinctive pricing in the metropole of the integrated empire's economy: Japan's central and local rice markets in the early 20th century
3. 学会等名 Academic Conference on East Asian History (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 地方零細銀行と地域経済：1898-1919年香川県宇多津町の製塩業金融
3. 学会等名 近世史フォーラム2021年度10月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 地方零細銀行と地域経済：1898-1919年香川県宇多津町の製塩業金融
3. 学会等名 2021年度第6回慶應義塾大学産業研究所（KEO）セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ito, Mikio
2. 発表標題 Detecting Structural Breaks in Foreign Exchange Markets by Using the Group LASSO Technique
3. 学会等名 96th Annual conference of Western Economic Association International (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 日露戦後日本の政府介入と超過需要：専売制度下食塩市場の分析
3. 学会等名 大阪経済大学日本経済史研究所第99回経済史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 帝国日本の台湾・関東州塩供給：1890-1910 年代を中心に
3. 学会等名 三田史学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 前田 廉孝	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 484
3. 書名 塩と帝国	

1. 著者名 社会経済史学会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 746
3. 書名 社会経済史学事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	伊藤 幹夫	慶應義塾大学・経済学部（三田）・教授	
	(Ito Mikio)		
	(70184695)	(32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------